

説 教

聖日礼拝 北浜チャーチ
黒田 禎一郎

2019年11月10日（日）

主 題：“「はい」を「はい」と言いなさい”

—さばかれないため—

テキスト：ヤコブの手紙5章12節

はじめに

- ・ヤコブの手紙は、信仰的にあまり重要なことではないと思われてきました。それは「永遠の命」、「罪の赦し」、「十字架と復活」などについて語っていないからです。確かにそうですが、だからと言ってクリスチャンにとって、あまり重要な手紙ではないと言うことはできません。
- ・ヤコブがこの手紙を書いた当時の社会状況、そしてキリスト教会全体の風潮を推察する時、この手紙は実に貴重であると言えます。今日の私たちの社会が当時と似ていることを思えば、ヤコブの手紙はそのまま私たちにも当てはまります。ですから、ヤコブがここで述べていることは、私たちの日々の生活に欠かすことができない内容です。
- ・今日のテキストでは、「**とりわけ、誓うことはやめなさい。**」とあります。これは当時のヘブル的背景があって書かれた言葉ですから、異邦人である私たちには、なかなか真意が理解されないものです。
- ・たとえば、キリスト教国の大統領や首相の任職式では、聖書に手を置いて誓う儀式があります。また最近の日本で多い、キリスト教式結婚式では、必ず新郎新婦は「誓いの言葉」を交わし合います。皆さん！もし、この言葉をそのまま受け止めるとするならば、聖書の言葉に違反することになります。
- ・いかがでしょうか。今日の聖句はどんな意味でしょうか。私たちは聖書の教えに、真に反することを行なっているのでしょうか。いいえ、そうではありません。では、私たちはどのようにこの聖句を受け止めるべきでしょうか。
- ・今日、私たちは次の2点から考えてまいりましょう。

**大切なポイント**

1. 誓うことはやめなさい

1) 誓ってはならない真意

- ・ 先ず、この箇所は特に文脈的解釈をすることが大切です。昔のユダヤ人たちは、律法に基づき、信仰の名において誓いをしていました。誓いは彼らにとっては、信仰そのものであり。信仰の証しであり、また信仰生活そのものでさえありました。イエスも当時、そのようなユダヤ人たちに対して、**マタイ福音書5章**で次のように言われました。

5:33 また、昔の人々に対して、『偽って誓ってはならない。あなたが誓ったことを主に果たせ』と言われていたのを、あなたがたは聞いています。

5:34 しかし、わたしはあなたがたに言います。決して誓ってはいけません。天にかけて誓ってはいけません。そこは神の御座だからです。

5:35 地にかけて誓ってもいけません。そこは神の足台だからです。エルサレムにかけて誓ってもいけません。そこは偉大な王の都だからです。

5:36 自分の頭にかけて誓ってもいけません。あなたは髪の毛一本さえ白くも黒くもできないのですから。

5:37 あなたがたの言うことばは、『はい』は『はい』、『いいえ』は『いいえ』としなさい。それ以上のことは悪い者から出ているのです。

- ・ ここで覚えない点は、3つの誓いがあります。ユダヤ社会で3つは、完成数ですから、これら3点の誓いはすべての分野での誓いをさしています。

① 天をさして誓うとは、神の御名を口にして誓うことです。

② 地をさして誓うとは、地ある何かを聖なるものとさして誓うことです。

③ その他の何かをさして誓うとは、同じように聖なるものをさして誓うことです。

- ・ ところが、当時のユダヤ人たちは、軽々しく誓いの言葉を発していました。不完全な人間は、誓っても守れない存在であります。それにも関わらず、当時のユダヤ人たちは軽々しく誓っていました。イエスは、それはいけないことであると教えられました。そしてヤコブも同じように、軽々しく誓ってはいけないと教えました。これを先ず第一に抑えたいと思います。

- ・ 皆さん。現在も人はいろいろな誓いをしています。一般的に、真の神を知らない人々にとっては、誓うということはそう重大なことではありません。しかし、キリスト・イエスの神がどういうお方であるかを知った人は、誓うということは重大なことです。簡単に誓うことではありません。

- ・神というお方は天地の造り主です。全知全能であり、義であり、愛であるお方です。さらに、聖であるお方である神を、本当に知った人は、神を畏れます。そして、軽々しく誓いの言葉を口にすることはできなくなります。
- ・そこで大切なことは、神の御名を軽々しく扱ったり、汚したりすることのないように、ということです。考えてみてください。何かをさして誓うとは、その人自身の言葉に信頼性がないからです（信頼性があれば、誓う必要はない。）。
- ・誓いは、聖であるお方（創造神）の前だけです。しかしながら、ユダヤ人たちはかつて安易に誓いの言葉を口に出していました。神以外のものをさし、地や、その他のものをさして誓いをしていました。彼らユダヤ人は、選民であり、神の民です。神に愛された民でした。そして神に従うよう律法が与えられた民でした。
- ・しかし、その彼らが誓うという神の真意から離れてしまったのでした。神はもう一度ヤコブを通して、神の前における神の民の生き方（姿勢）を教えられました。それは、誓ってはいけないということです。では、なぜ誓ってはいけないのでしょうか。

2) なぜ、誓ってはならないか

- ・聖書は、誓ってはならない理由を上げています。
5:12 私の兄弟たち。とりわけ、誓うことはやめなさい。天にかけても地にかけても、ほかの何にかけても誓ってははいけません。あなたがたの「はい」は「はい」、「いいえ」は「いいえ」でありなさい。そうすれば、さばきにあうことはありません。
- ・ヤコブは、「はい」を「はい」、「いいえ」を「いいえ」と言うならば、「さばきにあうことはありません。」と言いました。ここで覚えなければならないことは、人は地上の生活を終えた後、みな神の前でさばきを受けることです。地上においてなしたことに従って、人は裁かれることとなります。
- ・聖書は次のように語っています。
旧約聖書では、**伝道者の書12章**
12:14 神は、善であれ悪であれ、あらゆる隠れたことについて、すべてのわざをさばかれるからである。
- 新約聖書では、**2コリント人への手紙5章**
5:14 私たちはみな、善であれ悪であれ、それぞれ肉体においてした行いに応じて報いを受けるために、キリストのさばきの座の前に現れなければならないのです。
- ・ですから、神のさばきは聖書全巻を通して教えていることです。

やがて神の前に立つ私たちは誰でも、言葉や行いに責任が問われます。神は、悪や不正に対して義をもってさばかれます。それは恐ろしいさばきです。神は義であるお方ですから、悪、不正、罪を見過ごすことはできません。

- ・しかし、そのさばきの座の横にイエスはおられ、イエスを信じる者はすでにイエスの御血によって、罪が赦されていることを証言していただきます。なんとこの恵まれた立場ではありませんか。それが救いに与ったキリスト者の特権です。
- ・行いによったものではありません。ただ信じるという信仰だけで、キリスト者はこのような特権が与えられました。ですから、私たちは神に賛美をお捧げするのです。
- ・皆さん。どうぞ、誤解しないでください。イエスがさばきの座で弁護してくださるから、誓いにおいて、間違いを起こしても問題ではないという意味ではありません。そうではなく、ここで神を信じる者の大切な生き方（姿勢）を教えているのです。
- ・神は私たちに自力で守れないこと、できないことを、安易に軽々しく誓ってはいけないと、教えています。逆を言うならば、私たちの正しい生き方を教えてくれているのです。
- ・つまり、大統領就任式や結婚式において、聖書に手をおいて誓約することは、それは本当に厳粛な誓いであり、約束を果たすことが求められています。
- ・約束を果たせないのに誓うことは、神の前に嘘の誓いをする事になります。ですから、私たちは神の前に正しい生き方が求められています。神の前に正しく生きる人は、神の祝福を受ける人です。
- ・では、どうすればよいのでしょうか。

2. 私たちが志すことは何か

5:12 私の兄弟たち。とりわけ、誓うことはやめなさい。天にかけても地にかけても、ほかの何にかけても誓ってはいけません。あなたがたの「はい」は「はい」、「いいえ」は「いいえ」でありなさい。そうすれば、さばきにあうことはありません。

1) 神の前に正直であること

- ・神を信じる私たちが取るべき態度は、「はい」を「はい」、「いいえ」を「いいえ」とだけ言うことです。これが私たちキリスト者に求められています。

す。つまり、何かのことに關して答える必要が生じたならば、単純に「はい」か「いいえ」と言えばよいのです。



- その人の言葉に信頼性があるなら、性急に誓うようなことをする必要はありません。この誓いの禁止は、「主が来られる時」が近いことを前提に語られています。しかも、それは命令形であります。
- 主のさばきは、自分が語るすべてのことについてであると知るならば、私たちは安易に誓うことはしなくなるはずですが。神の名前を口に出して誓うことは、自分のあいまいな態度や姿勢を現しています。真の意味で神を知らない異邦人のような無知を現すことになります。
- そう考えることができるならば、キリスト教結婚式で「誓いの言葉」を交わすことは、どんなに重いことかが分かります。なぜなら、人は自分の言葉（誓いの言葉）に責任を持たなければならないからです。

聖書は次のように語っています。 **ガラテヤ人への手紙 6章**

6:7 思い違いをしてはいけません。神は侮られるような方ではありません。人は種を蒔けば、刈り取りもすることになります。

私たちは常日ごろから、神の前に正直に生きる生活を送ることが大切です。しかし、これはそう努めなければ出来ることではありません。私たちは正直に、そして素直な心を持てるように、志そうではありませんか。

2) 聖徒の実践生活

- では、どうすれば、そのような生活を送ることができるでしょうか。
 - ① **神を知ること、神を経験することです。**
 そこで必要なことは、祈りとみことばです。つまり日々のデイポーション生活を確立することです。私たちは友人や配偶者など、だれかを知ろうと願うならば、時間が必要です。
 - 同じように神を知るにも、時間を取り、そして神との交わりを通して、神がどのようなお方か知ることができるのです。私たちは経験を通して、本当の意味で神を知ることができます。
 - ② **神を喜び、神に感謝する生活を送ることです。**
 生きて働いてくださる神が、私たちにどんなわざをなして下さっているかを知るならば、喜びと感謝が湧いてきます。

まとめ

主 題：“「はい」を「はい」と言いなさい”

—さばかれないため—

- ・ 私たちは今日、大切なことを学びました。
5:12 私の兄弟たち。とりわけ、誓うことはやめなさい。天にかけても地にかけても、ほかの何にかけても誓ってはいけません。あなたがたの「はい」は「はい」、「いいえ」は「いいえ」でありなさい。そうすれば、さばきにあうことはありません。
- ・ では、どうすれば「はい」を「はい」、と言える生活を送ることができるでしょうか。 3点。
 1. 神の前に正直に生きること
 2. 祈り、みことばを学ぶこと
 3. 神を喜び、神に感謝することです。

* God bless you !